

暗黒をすり抜ける、 いつでもやってくる山崎!

暗黒の身体を思うと、沼地のような身体、傀儡、エイリアンのスライム状の身体、見捨てられた身体、老いていく存在、辺境に追いやられがちな身体のイメージ。そこに日本の芸能の原点を見るようにも思う。現在の伝統芸能の型に至る寸前の芸能的身体の状態と取りとめない暗黒の身体の関係は、幻想を呼び起こし、非常にスリリングだと感じるのである。しかし室伏さんは暗黒と芸能は結びつかないと言っていた。僕の場合、例えば夜の帷から、または芸者たちがいる花街から、背後に忍び寄る暗黒というイメージは立体的な深淵性と一瞬の刹那性、そして身体から拡がる多方向への空間のディメンションを感じさせる。初めてアスベスト館を訪ねた時、股引姿の土方さんが猫背で稽古場を通り過ぎる姿態と帰りがけの目黒不動尊の夜の帷を見て、これが暗黒舞踏なのかなと感じたものだった。僕にとってのダンスにおいて必要不可欠と言わざるを得ない身体の暗黒をすり抜けた先には何があるのだろうか？その先にあるものを問うことが、次世代アーティストに渡す鍵となればうれしい。美術はずっと舞踏に長年貢献されてきた山村俊雄さんに手掛けて頂きました。

—— 山崎広太

山崎広太 劇場プロジェクト

2022・12・28-30 新作ダンス

机の一尺下から
陰がしのび寄ること

Kota Yamazaki ©mina



© André van Rensburg

© Takashi Kanai

© Chikashi Kasai

© Hideto Maezawa

[振付] 山崎広太
 [ダンス] 穴山香菜
 岩淵貞太
 小暮香帆
 鶴家一仁
 西村未奈
 宮脇有紀
 山野邊明香
 山崎広太

2022年12月28日(水)19:30開演
 29日(木)19:30開演
 30日(金)15:00開演

[音楽] 大谷能生
 長井健太
 [美術] 山村俊雄

山崎広太 笠井叡に師事。2007年にニューヨーク・パフォーマンス・アワード(ベッシー賞)受賞。2012、2015年ニューイングランド財団より助成。2013年現代芸術財団アワード、2017年ニューヨーク芸術財団フェロー、2018年グッゲンハイム・フェローの各賞受賞。2021年ドリスデューク財団より助成。現在、ボディアートツラボラトリー主宰。ペンントン大学専任講師。Dance Base Yokohama ゲストアーティスト。
 *本作はデュオ作品「幽霊、他の、あるいは、あなた」(フロリダ州立大学国立振付センターにて制作。21年DaBYトライアウト、22年ジェイコブスピローにて発表)を含む。

机の一尺下から陰がしのび寄ること



© Jamie Kraus

[会場] BankART Station
 横浜市西区みなとみらい5-1、みなとみらい線「新高島」駅直結 B1階

[チケット] (全席自由) 予約開始11月25日(金) 一般4,000円/学生3,000円(要証明)
 [予約] Body Arts Laboratoryのwebサイトの公演ページから「予約」におすすみください。

[公演ページ] <https://bodyartslabo.com/kota2022/>
 [問合せ] yamazakikota2022@gmail.com

*新型コロナウイルス感染症対策とその最新情報を、webサイトよりご確認ください。



[照明] 岩品武顕
 [衣装] GAZAA さとうみち代 山崎広太
 [音響] 齊藤梅生
 [舞台監督] 河内崇
 [宣伝デザイン] 鈴木成一デザイン室
 [制作] 霜村和子
 [制作協力] 岩中可南子 くわはらよしこ
 [主催] 一般社団法人ボディアートツラボラトリー
 [協賛] 蟻鱒鳶ル
 [助成] 文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

[レジデンス協力] Dance Base Yokohama



© Takehito Kinoshita

© Sakiko Nomura

「YPAMフリンジ2022参加」本作のショーケース+プレゼンテーション
 12月18日(日)15:00 @Dance Base Yokohama(共催)
 詳細情報、チケット購入は、YPAM2022公式webサイトへ。

